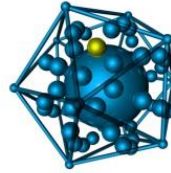




FFR yarai analyzer 導入事例

セイコーエプソン株式会社
ビジュアルプロダクツ事業部 様



Yarai
Analyzer

Automated Malware Analysis System

ビジュアルプロダクツの 研究開発、製造、販売、サービスを展開

セイコーエプソン株式会社「以下、エプソン」は、「省・小・精の技術」を究め・磨き続けて、あらゆるお客様にエプソンしか提供できない独自の価値としてお届けすることを使命とし、情報関連機器（プリンティングシステム事業・ビジュアルコミュニケーション事業）、デバイス精密機器（マイクロデバイス事業・プレジジョンプロダクツ事業）、センサー産業機器（センシングシステム事業・インダストリアルソリューションズ事業）の3セグメントにより、お客様に製品・サービスを提供しています。現在エプソングループ会社は94社あり、従業員数が連結73,639名/単体11,848名（2013年9月末現在）2013年3月期売上実績は連結8,512億円/営業利益212億円の企業です。



ビジュアルプロダクツ事業部
VP事業管理部 部長
瀬木 達明 氏

「ビジュアルプロダクツ事業部は、ビジュアルコミュニケーション事業として、明るく自然で目に優しい画像を滑らかに再生できる3LCD方式を採用した“プロジェクター”、いつでもどこでも大画面を楽しむことができるシースルタイプの“ヘッドマウントディスプレイ”、用途に合わせたラベルが簡単・快適に作成できる“ラベルライター”、3LCD方式の基幹デバイスである“高温ポリシリコンTFT液晶パネル”の事業を担当しています。

商品企画・設計から製造・販売・アフターサービスまで、自社グループ内で「創って、作って、お客様にお届けする」すべての機能を展開する垂直統合型のビジネスモデルが生み出す総合力により、プロジェクター事業では全世界販売シェアNo.1※を実現しています。」
(瀬木氏)

※ 2001年~2012年 Futuresource Consulting Limited調査

導入の背景 製品に添付するソフトウェアやマニュアルに対する出荷前検査の強化

FFR yarai analyzer（以下、yarai analyzer）の導入を担当したVP事業管理部では、経営目標の実現をミッションとして“経営管理・業績管理・情報管理”の3つの機能を担当しています。経営トップの意思決定に足る情報をスピーディーに提供し続け、仕組み（ルール・IT）を作り、経営プロセスを磨くことで目標達成に向け取り組んでいます。経営管理の機能については、事業全体のリスクを掌握しリスクの予防と制御にも取り組み、ITリスクに対するセキュリティ対策にも注力しています。

「ビジュアルプロダクツ事業部の製品についてはアンチウイルスソフト等による対策をおこなってきましたが、2010年5月に製造工程のPCがアンチウイルスソフトでは検知できない未知のマルウェアに感染するトラブルが発生しました。幸いにも出荷する製品には影響がなかったため、お客様への被害は一切発生しませんでした。この経験からVP事業管理部では、製造工程だけでなくその前段階である設計や開発といった工程に対しても対策が必要と考えました。そうすることで製造工程で利用するPCだけでなく、製品に添付するソフトウェアやマニュアルにおいてもマルウェアの混入を防げると判断しました。

製造工程については過去に実績のあった“PCを使用しない業務”や“ホワイトリスト型製品”などの導入を検討しましたが、製造工程だけでなく設計や開発といったすべての工程での導入は現実的ではないとわかりました。といいますが、多種多様な業務をWindows環境以外で対応することは現実的に難しく、同様にホワイトリスト型製品を利用することも制約が多すぎたため、実運用に導入するまでには至りませんでした。」（赤塚氏）

導入の経緯

未知マルウェア感染の有無を判定できる F F R I の技術力に注目

「エプソン本社のセキュリティ担当者が、他の製品などでかわりがあったFFRIに対してサンドボックス内での振る舞い検知で未知マルウェアの感染を検査することができないかと投げかけたのがきっかけでした。

その後FFRIより課題や運用面を含めて提案をいただき、yarai analyzerの評価版を導入するまでに至りました。実際に評価したところ、製品に同梱されるソフトウェアとマニュアルに対して、未知マルウェア感染の有無を判定できることから出荷前検査としてyarai analyzerの採用を決定しました。」(赤塚氏)

導入の効果

判定結果の明確さと専門家でもわかり易い判定理由

「現在はビジュアルプロダクツ事業部内の製品であるプロジェクターやラベルライターに同梱されるソフトウェアとマニュアルの出荷前検査としてyarai analyzerを利用しておりますが、今後ビジュアルプロダクツ事業部の全製品の出荷前検査としてyarai analyzerを利用します。

実際の使用感としては、マルウェアの技術的な専門家でもマルウェアの混入有無の判定がすぐわかる点に尽きると思います。」(赤塚氏)
マルウェア感染していた場合も、解析結果レポートの中でわかり易くマルウェア判定の根拠が記載されており、問題点を迅速に特定できるため、対応時間の短縮に繋がります。

「また、マルウェアの解析については、通常外部の専門家へ解析依頼をしますので、当然時間だけでなく膨大な費用がかかってしまうことが想定されます。しかし、yarai analyzerの導入によって外部に解析を依頼する必要がなくなり、大幅にコストを削減することができます。」(赤塚氏)



ビジュアルプロダクツ事業部
V P 事業管理部 主任
赤塚 功一 氏

今後の展望

事業部内だけでなく全事業部の製品出荷前検査として利用を検討



セイコーエプソン株式会社 本社

「今回導入したyarai analyzerは、お客様から“エプソン製品は(マルウェアが混入されている心配がないので)安心して使える”との評価をいただくために、重要な役割を担っていくと考えています。」(瀬木氏)

現在はビジュアルプロダクツ事業部が出荷前検査としてyarai analyzerを利用していますが、今後の実績や効果により他の事業部でも利用を検討していきたいとのこと。

導入事例に記載された情報は初回掲載時（2013年12月）のものであり、閲覧・提供される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。導入事例は情報提供のみを目的としています。当社は、明示的または暗示的を問わず、本内容にいかなる保証もいたしません。

製品・サービスについてのお問い合わせは

株式会社 F F R I

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階

TEL : 03-6277-1811 E-mail : sales@ffri.jp

本製品に関する情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.ffri.jp/>

■このパンフレットの内容は改良のために予告無しに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。

Ver 2.00.01

2014年1月現在